

福岡県立社会教育総合センター 創立30周年記念行事 記念講演  
**「社会教育の継承と発展 ～思い出を辿る～」**

放送大学福岡学習センター所長(特任教授)

中央教育審議会委員

**菊川 律子 氏**

社会教育総合センター 創立30周年記念行事における記念講演では、「放送大学福岡学習センター所長(特任教授)」、「中央教育審議会委員」であり、当センターの第13代所長でもありました菊川律子氏に「社会教育の継承と発展～思い出を辿る～」と題してご講演いただきました。

**社会教育の継承と発展  
 ～思い出を辿る～**

- 1 はじめに
- 2 社会教育・生涯学習の動きと  
社会教育総合センター
- 3 社会教育総合センターの軌跡
- 4 教育全体の動向と  
社会教育総合センターの課題
- 5 おわりに



○教育を紐解いていくと、今の若者や大人、ひいては大人社会の在り方についての課題が見えてくる。  
 教育を考える→人間を考える。

平成20年文部科学省白書より

市場ニーズの多様化や商品サイクルの短期化等を背景に、職場等において、基礎学力や専門知識に加え、コミュニケーション能力や実行力等の「社会人基礎力」が求められるようになった。

平成19年度大学におけるモデル事業において、社会人基礎力の能力の育成・評価手法の開発を行う。

こうしたことを受けて

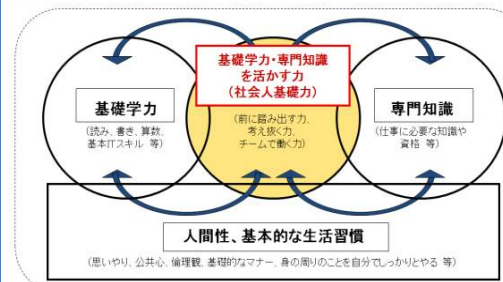
**これからの教育観**

**学 力 ……義務教育  
 +  
 人間力 ……社会教育**

経済産業省提唱「社会人基礎力」より

**今、社会(企業)で求められている力**

「基礎学力」「専門知識」に加え、今、それらをうまく活用し、「多様な人々とともに仕事を行っていく上で必要な基礎的な能力=社会人基礎力」が求められている。



※社会でたくましく生きる次世代の若者を育てるためにも、学校教育の力だけでなく社会教育の力が大きく求められることとなる。

ユネスコ「ドローールレポートにおける生涯学習論」より

これからの教育政策の取り組みにおいては、誰もがその内に持っている未知の可能性という宝物を発見するために、生涯学習の推進を強化すべきであると主張する。

そして、教育が寄って立つべき4本柱として、「**知ることを学ぶ**」(Learning to know; 知識の獲得の手段そのものを習得すること)、「**為すことを学ぶ**」(Learning to do; 専門化した職業教育ではなく、様々な実用的能力を身につけること)、「**(他者と)共に生きることを学ぶ**」(Learning to live together, Learning to live with others; 他者を発見、理解し、共通目標のための共同作業に取り組むこと)そして「**人間として生きることを学ぶ**」(Learning to be; 個人の全き完成を目指すこと)を掲

※「上記のドローレポートや経済産業省の提唱する『社会人基礎力』にもあるように、これからは『人間力』の育成が必然的に求められてくる。そして、社会教育・生涯学習こそ『人間力』を生み出し、育んでいく大切な教育である。社会教育総合センターは、そうしたことを念頭に、人生各期(乳幼児→青少年→成人→高齢者)の課題と繋がる教育の実践研究や事業実施、企画・運営をしていただきたい。」とこれからのセンターの進むべき道を示唆いただきました。